

立山夏山開き共催事業「称名滝探勝ジオツアー」

2016年7月1日（金）

称名溪谷と称名滝にみえる様々な地形や地質を観察し、火山と水そして雪がおよそ10万年のときをかけて創ったその営みを振り返りました。

参加者にはまず、立山駅にて「立山夏山開き」に参加して頂きました。夏山シーズンの到来を向かえて、観光客・登山者の安全を祈願する神事や立山権現太鼓の演奏などをご覧頂き、称名滝へと向かいます。

称名川の急流が造り上げた切り立ったV字谷。およそ10万年前の立山（弥陀ヶ原）火山の大噴火で流れ出した火山灰や軽石が一带を埋め尽くし「溶結凝灰岩」の柱状節理として現れた称名滝の絶壁。滝の激流はその壁を洗い節理が崩落し滝の位置を上流へと押し上げます。V字谷の急斜面「悪城の壁」に降った雪は幾度となく雪崩を引き起こし、そこに槓状の筋「アバランチシュート」を刻みます。

立山黒部ジオパーク協会のジオガイドには、それら特徴的な地形の成り立ちを分かりやすく紹介していただきました。少し汗ばむ陽気の中、遊歩道の坂を登り詰めた先で称名滝の瀑布は豪快な涼風で23名の参加者を迎え入れてくれ、気持ちの良いツアーとなりました。

